

つくば3Eフォーラム
パネルディスカッション
December 2007

環境に配慮した 交通行動に向けて

運輸部門のCO₂排出量削減策

筑波大学大学院リスク工学専攻
都市交通研究室 谷口綾子

運輸部門のCO2排出量

< 全国的な傾向 > … CO2排出量は頭打ち

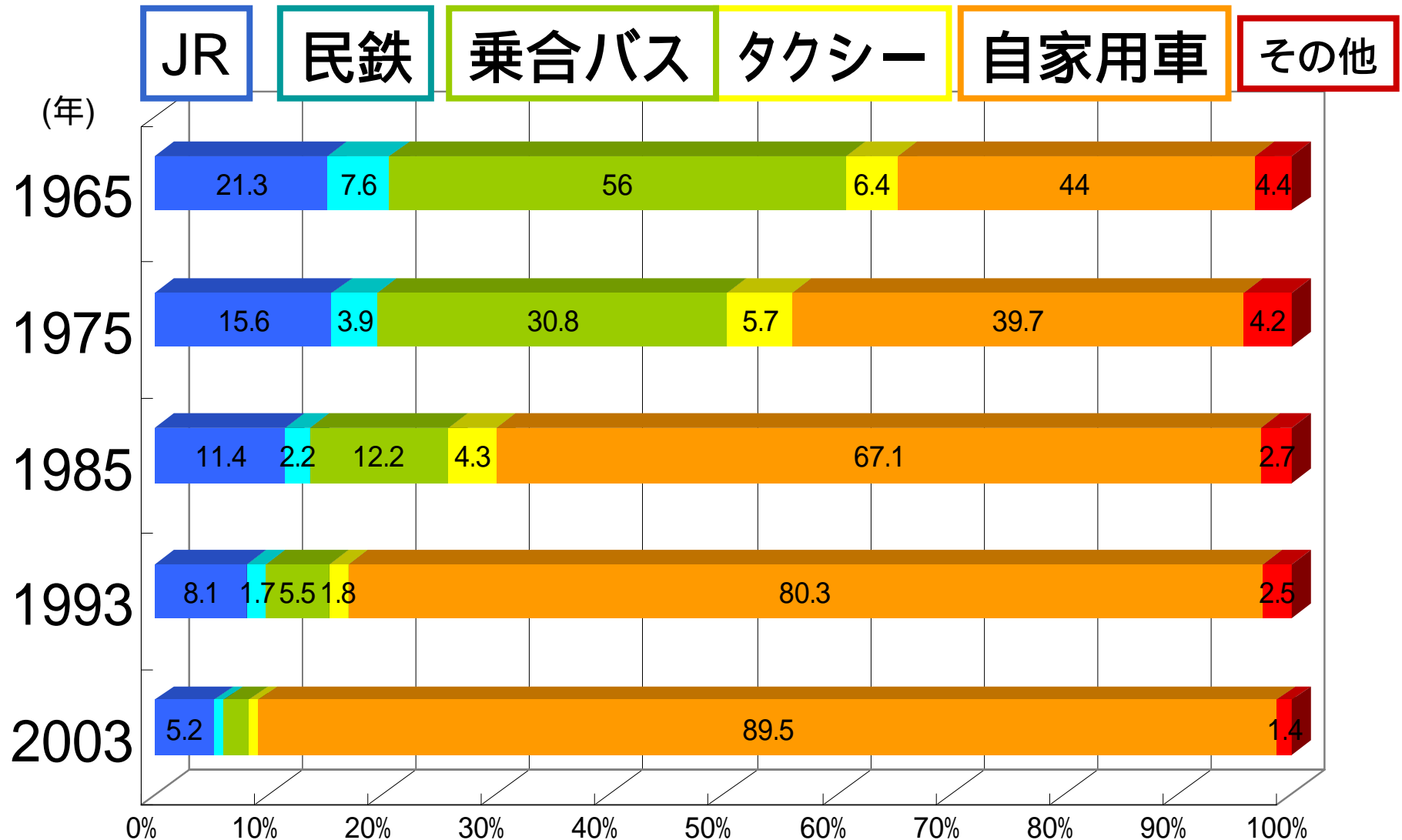
- 物流分野は、運輸事業者の努力によりCO2が減少傾向
- 業務交通、マイカー利用も2001年度をピークに微減傾向
景気、低燃費車両の普及に起因?

京都議定書の削減目標にはほど遠い

< つくばでは? >

- 市域内は典型的な自動車依存型社会

茨城県 旅客輸送分担率の推移



茨城県公共交通活性化指針より

運輸部門のCO2排出量

< 全国的な傾向 > …CO2排出量は頭打ち

- 物流分野は、運輸事業者の努力によりCO2が減少傾向
- 業務交通、マイカー利用も2001年度をピークに微減傾向
景気、低燃費車両の普及に起因?
京都議定書の削減目標にはほど遠い

< つくばでは? >

- 市域内は典型的な自動車依存型社会
- 脱却は可能か?

都市におけるマイカー利用の観点から発言

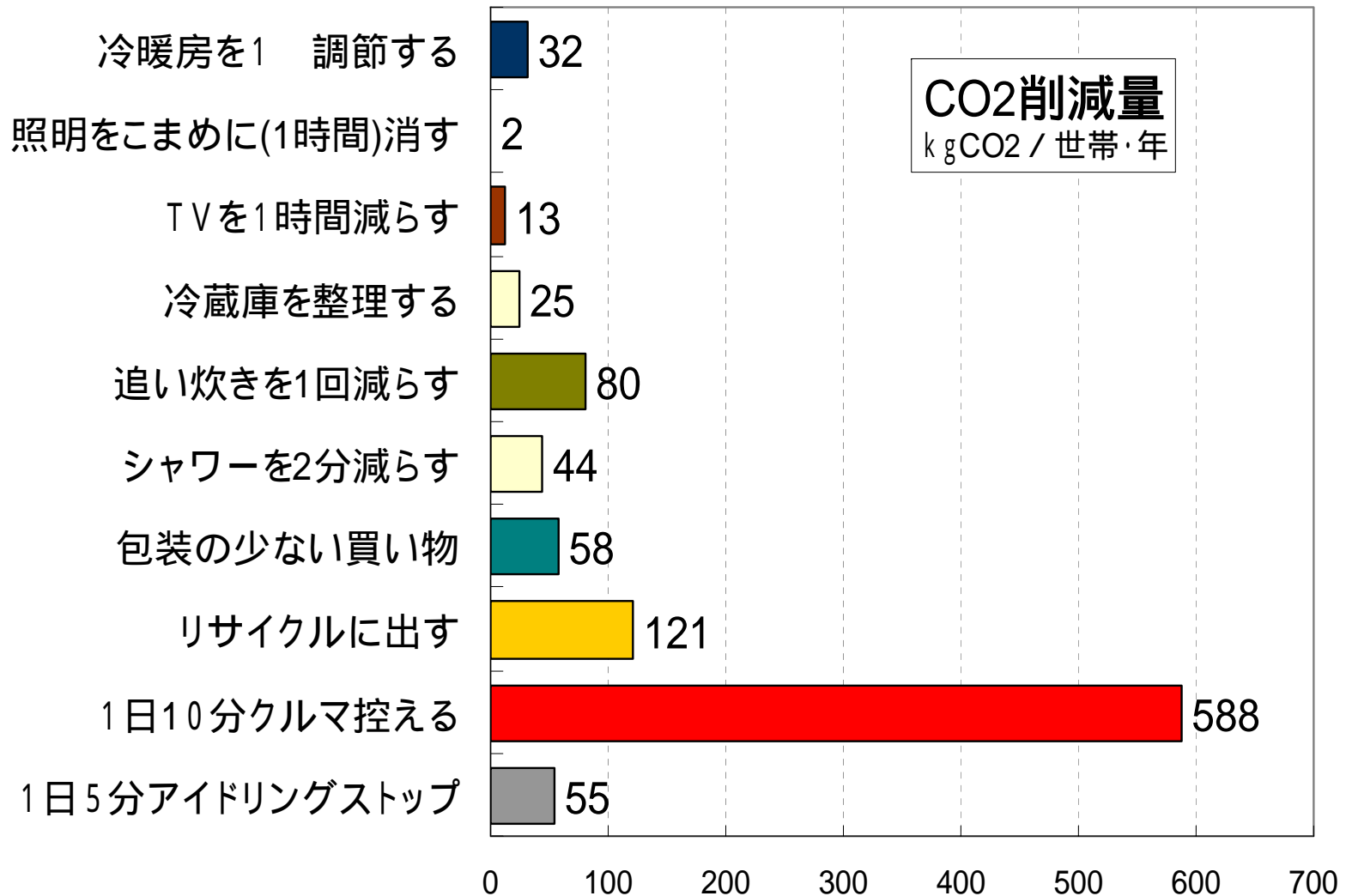
10年後

都市交通分野：CO2削減の短期的施策

- 自動車単体対策：低燃費の環境に優しい自動車の開発・普及
- 交通渋滞対策 つくば市ではそれほど効果見込めず？
ボトルネック対策、信号制御、バイパス建設等
- 自動車の効率的利用：
自動車共同保有の推進、P&Rの推進等
- 公共交通等持続可能な交通手段の利用促進：適切な情報提供、コミュニケーション
- 市民の意識啓発・行動変容

市民の意識啓発・行動変容： 環境リスクコミュニケーション

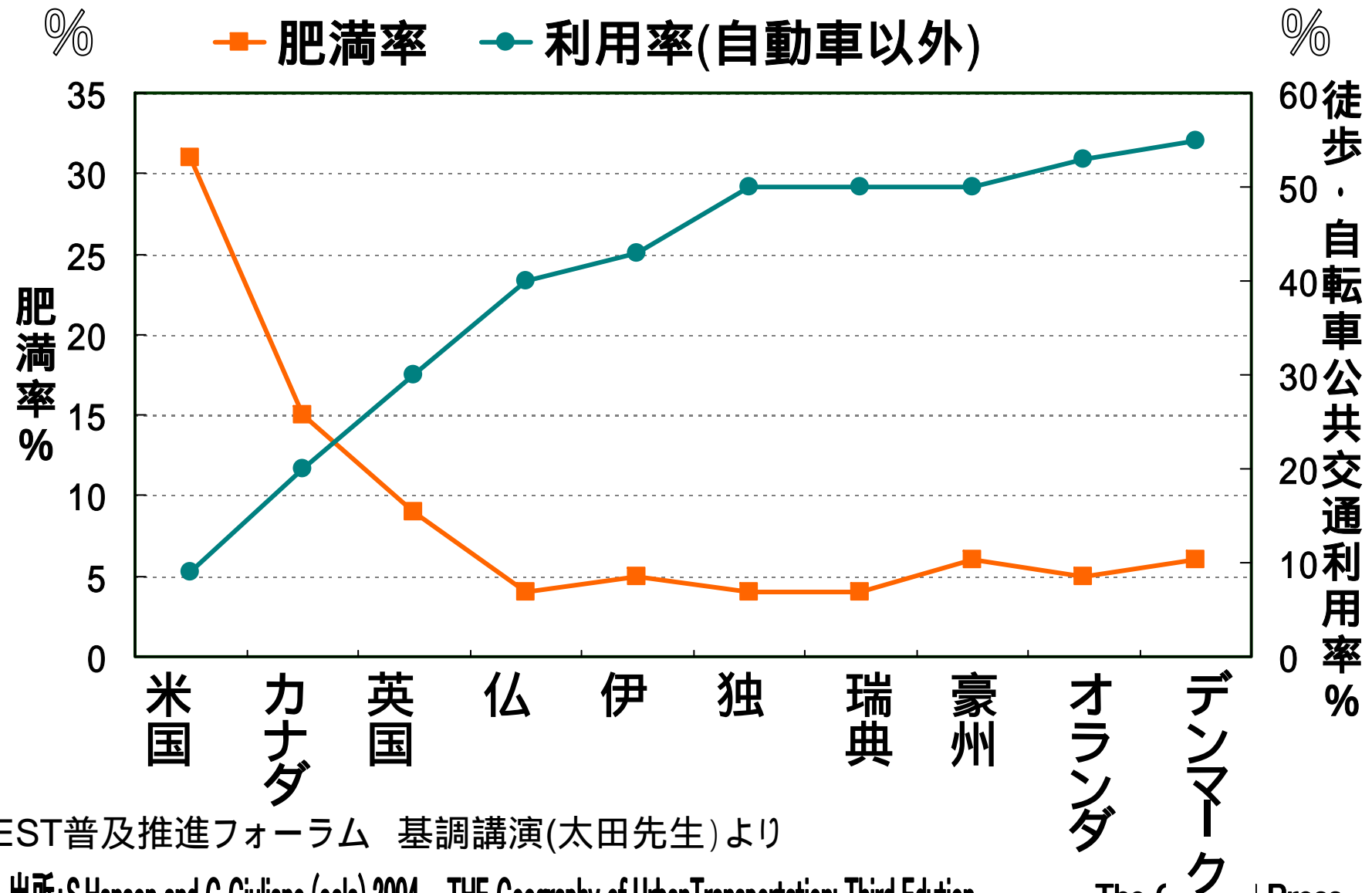
エコ活動による1年間のCO2削減量(太田裕之, 東京工業大学卒業論文)



市民の意識啓発・行動変容： 環境リスクコミュニケーション

- 「**環境**」のみを動機付けとしたコミュニケーションで態度・行動変容を促すことは、よほど意識の高い層以外は困難

国別 肥満度と 徒歩・自転車・公共交通利用率(都市交通)



EST普及推進フォーラム 基調講演(太田先生)より

出所: S.Hanson and G.Giuliano (eds) 2004 THE Geography of Urban Transportation: Third Edition

The C... Press

子どもの乗せられ移動(クルマ)

オルテガ「大衆の反逆」(1930)によると、大衆とは
「凡庸であることを自認しつつ、何ら努力もせずに
責任も負わずに自らの権利を主張するような人々」

どんな幼少期を過ごすかと大衆性が醸成されるか
「**傲慢性**」に影響を及ぼしている幼少期の生活について
の変数は、「**自動車利用**」だけ！

．．．子供の頃に
クルマばかり使う家に育った人間は、
大人になると、
傲慢な奴になる
ということが統計的に示唆(小松佳弘,東京工業大学卒業論文)

市民の意識啓発・行動変容

- 「**環境**」のみを動機付けとしたコミュニケーションで態度・行動変容を促すことは、よほど意識の高い層以外は困難
- **交通事故、健康、コスト、子どものモラル**など、他の動機付けも援用したコミュニケーションが必要
- **ソフト施策**(教育、コミュニケーション等)
+ **ハード整備**の適切な組み合わせにより、
総合的な**モビリティ・マネジメント**の視点が不可欠

2030年 . . .

2030年に向けた意識啓発・行動変容施策

教育

小中学生を対象に、
ロングスパンでの効果を狙う



居住地選択を誘導：コンパクトシティ化

- ・用途地域の規制など都市構造を変える
- ・大学入学、就職、結婚、転職等、適切なタイミングでのコミュニケーション

公共交通インフラ整備：バス、LRT